



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎  
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151 (代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## 咀嚼・嚥下・発音だけではない、お口の重要な機能について

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二

お口の機能としてまず思いつのが咀嚼(そしゃく)、哺乳・嚥下(えんげ)、発音です。しかし、これらはお口の機能の一部に過ぎません。

出産を終えた母親はわが子を抱きしめ、誰もが新生児の顔に口づけをするでしょう。この口づけをはじめとし口は非言語のコミュニケーションツールとしての機能を有します。また笑顔の口元に魅了されることはモナリザや国宝の仏像(図)を例に出すまでもなく古今東西の老若男女の普遍的な心理でしょう。

人を静かにさせる合図—「シ！」という口の構えと人差し指を立てるポーズは異文化圏でも通用するコミュニケーションツールです。口をへの字にする、頬を膨らませる、舌打ちなどは日本では不快や怒りを表す合図として万人に共通します。

一方、舌打ちもやり方を変えれば、乳児をあやすためのツールとして用いられます。また口笛は合図だけでなく楽曲でも使われることがあります。このように口腔はコミュニケーションツールとして重要な機能を営みます。

さらに口腔は生命維持に欠かせない呼吸機能を営み、発熱や運動時など代謝亢進時には口呼吸は欠かせません。一方、あくびは呼吸機能の補助機能であるとともに「飽き」を表すコミュニケーションツールとしても用いられます。味覚も口腔の重要な機能で、食の喜びには欠かせない機能であるだけではなく腐ったものなどを瞬時に感知する生命維持に欠かせない機能でもあります。また大量発汗時には塩味を欲し、疲労時には甘みや酸味を欲することも味覚が生理的状态を一定に保

つ(専門用語でホメオスタシスと言います。)ために必要な機能であることを示します。口腔が乾く感覚である口渴感も体の水分量を一定に保つために欠かせない機能です。



飲食物の温度を感知し、火傷や凍傷を予防したり、魚の骨や砂利片など侵害物を感知する口腔の温痛覚も生命維持に欠かせない機能です。また温痛覚は口腔の炎症など病的状態を感知する役割を担います。一方、寒い時の暖かい飲食物、暑い時の冷たい飲食物は幸福感をもたらす。温覚は味覚とともに食の喜びに密接にかかわります。また口腔の触覚、圧覚は硬さ、粘性、凝集性といったいわゆる食感に関わる食品の物性(テクスチャー)を感知し、歯ごたえ感、舌触り感などをもち、味覚、温覚とともに食の喜びには欠かせない機能です。このように口は生命を維持するための機能と人間らしく生きるための機能が満載された素晴らしい器官であり、そのお口の健康を守るのが私たち歯科医師の使命です。



図 奈良中宮寺の弥勒菩薩半跏思惟像(国宝)の微笑み

## 口腔リハビリテーション科 紹介

口腔リハビリテーション科 助教 伊原 良明、科長 高橋 浩二

昭和大学歯科病院口腔リハビリテーション科では現在教員、大学院生合わせて10名の歯科医師と2名の言語聴覚士が診療に従事しています。口腔リハビリテーション科は口腔機能障害全般に対応した科で、摂食嚥下障害の診断と治療、構音障害の診断と治療、そのほか舌や口唇運動の異常習癖の診断と治療、閉塞性睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置による治療が主な診療内容です。

当科における摂食嚥下の診療を求めて北海道や九州など日本全国の医療機関・介護施設から患者さんのご紹介を受けています。また構音障害の診療を求めて関東全域の医療機関や小学校の言葉の教室から患者さんの紹介を受けているほか、関西地方などからも紹介されることもあります。

当科の診療の特色は従来の方法に加え、当科で開発した診断装置(図1-3)・治療手技・機能改善装置を用いていること、嚥下訓練法の習得のために教育入院を行っていること、歯科医師に加え言語聴覚士、筋機能療法士、歯科衛生士などの専門家とチーム医療を行っていること、地域歯科医師会や医師会の先生方と連携して訪問診療を行っていること、そしてリハビリテーションの効率を高めるためにアドヒアランス(患者さん自身のやる気)の向上に努めて患者さんとその家族の皆様に寄り添った医療を展開していることです。

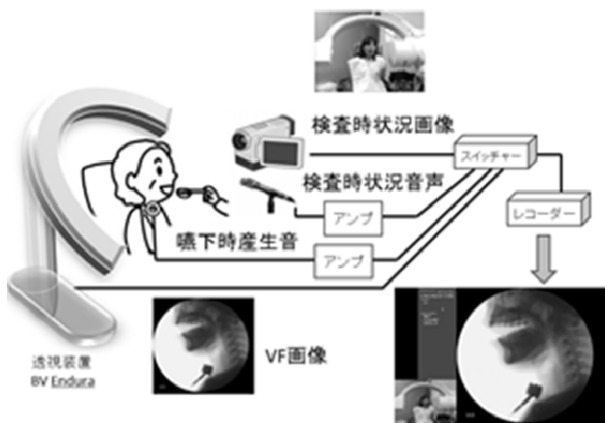


図1 嚥下障害の診断で最も有効な検査法である嚥下造影検査法を飛躍的に改善した当科のシステム

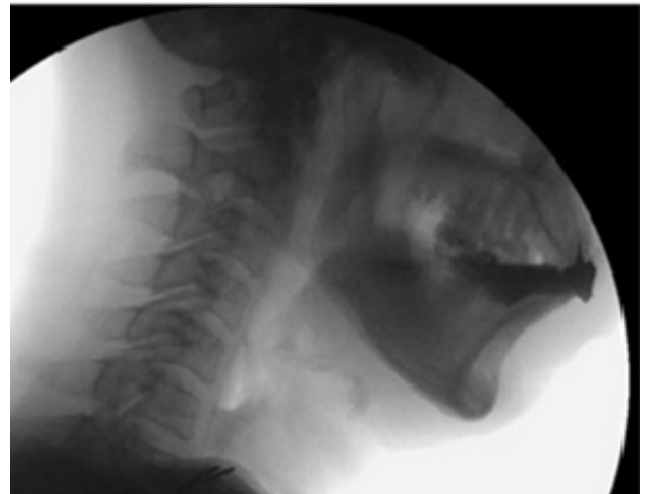


図2 従来の嚥下造影検査画像  
この画像では患者さんの姿勢、表情、呼吸状態などは全くわかりません。

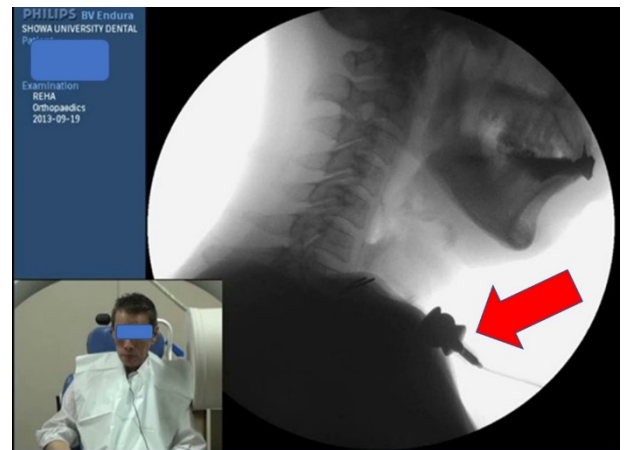


図3 当科で開発した嚥下造影検査システム  
左下の画像で検査時の患者さんの姿勢、表情、食べ方が確認でき、矢印のマイクで記録した呼吸音・嚥下音を聴くことができます。

超高齢社会先進国の中でもフロントランナーである本邦では口腔機能障害の患者さんは増加の一途を辿っています。飲み込みに関してお困りの方、ろれつが回らない・言葉がうまくしゃべれないなど言葉の問題でお悩みの方、睡眠時の無呼吸を指摘されている方は是非一度当科にご相談ください。



口腔リハビリテーション科集合写真(非常勤者、臨床研修医含む)

## 人命救助 横浜市緑消防署長より感謝状をいただきました

地域連携歯科 大学院生 松井 庄平

平成30年1月31日、電車内で心停止の傷病者に救命活動を行いました。その事に対し先日、横浜市緑消防署長より感謝状をいただきました。

早朝の静かな電車内で、バタツと音がして、大丈夫ですか！という声を耳にした瞬間、私は倒れた方に駆け寄りました。意識消失を認め、呼吸・脈拍も無くなった為、周りの乗客の方に協力を呼びかけ、救命活動を開始しました。AEDも使用して除細動を行い、その後到着した救急隊にスムーズに引き継ぐ事ができました。後日、退院し社会復帰されたご本人からご連絡をいただき、ご家族の方も一緒にお会いしてお話した時には、感慨深いものがありました。

私は現在、地域連携歯科の大学院生ですが、歯科病院在籍中に昭和大学横浜市北部病院での麻酔科研修、昭和大学病院救命救急センター

での研修にて勉強させていただきました。今回その時の学びや経験を生かすことができ、医療従事者として大変嬉しく思います。諸先生方に御指導いただき、感謝しております。バイスタンダー(救急現場に居合わせた人)の有無は非常に重要で、BLS(一次救命処置)は定期的に受講すべきだと再認識する機会でもありました。今後も精進致します。



## 【はじめまして】

事務長 山川 中



このたび、佐藤前事務長の後任として、4月1日から昭和大学歯科病院事務長を拝命いたしました山川中(やまかわ あたると申します。

昭和大学に入職して23年目を迎えましたが、歯科医療の分野で勤務することは初めてで、日々、歯科特有の専門用語を理解することに四苦八苦しております。

しかしながら、そんな私に対し、皆分かりやすく、丁寧に説明してくれるため、少しずつですが、私の中にも知識が蓄積し始めていることを実感しております。

この分かりやすく、丁寧に説明するという事は、患者さんに対しても同様だと思います。治療に来

られる患者さんは不安な思いで受診されるわけです。どのくらいの期間で治るのか、治療費はどのくらいになるのか、など様々な不安な思いを抱えて治療に来られます。

私たちは、そんな患者さんの様々な不安を取り除くことが使命であり、だからこそ病院の理念として【患者本位の医療】を掲げているわけです。

昭和大学歯科病院はこの病院の理念を念頭に、これからも地域の歯科医療を担う諸先生方と連携し、地域歯科医療に貢献していく所存です。私もその一助として尽力してまいります。

そうはいつても、まだまだ素人同然の事務長で、皆様のご協力なくしては本職を務めることができませんので、何卒ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成



## COOL BIZを実施しています

昭和大学では夏期に、環境省が中心となって実施されている環境対策などを目的としたクールビズ(衣服の軽装化)や地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>を削減するために、冷房時の室温を28℃にするなど昭和大学一丸となって環境対策に取り組んでおります。



当院も同様に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

クールビズ実施期間:平成30年5月1日(火)~9月30日(日)

事務課

**COOL BIZ**

28℃ 設定温度  
ON/OFF スイッチ  
コンセント  
省電モード パソコン

実施期間:平成30年5月1日(火)~9月30日(日)  
※気象条件により、期間は変更する場合があります。  
昭和大学は、全施設一丸となって節電に取り組んでおります。  
看護師・歯科衛生士・診療放射線技師・薬剤師・歯科技工士・臨床検査技師・事務員は水ロシャツを着用しております。

90th SHOWA University 至誠一貫 since 1928 昭和大学

## 歯と口の健康週間

6月4日~6月10日は、歯と口の健康週間です。

2018年度の標語は「のばそうよ 健康寿命 歯みがきで」です。健康寿命とは自立した日常生活が送れる期間を意味しますが、健康寿命が短くなると要介護の状態が長く続くこととなります。

最近では歯の本数が多い人ほど要介護状態になりにくい事が分かってきました。すでに歯を失った人も、入れ歯などでお口の機能を回復すると認知症の発症率が少なくなるという報告も挙がっています。健康寿命をのばすために歯の機能を維持・回復することがとても大切なのです。

そこで正しいセルフケアの方法を身につけることが重要になります。また、定期的な受診で歯周病や、むし歯を予防し、早期発見・早期治療をすることが歯の健康寿命をのばすことに繋がります。

当院では、より長く健康な日常生活を送れるように予防を中心とした取り組みに力を入れています。これを機会にセルフケアの見直しをしてみませんか？

詳しくは歯科医師・歯科衛生士までお尋ねください。  
歯科衛生室 坂本 奈津季

## 編集後記

ゴールデンウィークが終わりましたが、今年は例年に比べて寒暖差が大きく関東でも雪が降ったという地域があったようです。東京でも朝晩と昼の寒暖差が大きく体調管理が難しいですね。体調を崩さないように気を付けていきたいものです。口の中の管理も同じく気を付けていきましょう。ぜひ、歯科病院をご活用ください。(S.N)

**お口の機能**

『食べる』 『話す』 『呼吸する』 『表情をつくる』

スムーズに行うには・・・

- ✓歯がある・しっかり咬める
- ✓虫歯や歯周病がなくお口の中が健康
- ✓お口の中が唾液でうるおっている

**虫歯・歯周病の予防も大切です**

虫歯や歯周病になると？

- ・歯や歯肉の痛み・歯がぐらぐらする・口臭がする
- ・症状が進行すると歯が抜けてしまうことも

予防するには？

- セルフケア  
毎日のブラッシング(歯磨き)でプラークを除去しましょう
- 定期検診  
定期的に歯科医院を受診し、お口の中をチェックしましょう